

『東洋医学で人を診る』弁証論治で読み解く、 女性の人生物語。 ～妊娠を望む治療から、安産を願う妊娠中の治療、 そして産後のフォローまで～

米山章子

ビッグママ治療室，一元流鍼灸術

今から4年前、鍼灸不妊治療の臨床を通じて、「不妊！大作戦」をたにぐち書店より出版いたしました。たった4年ですがそれから社会は大きく変化し、最近では「卵子老化」ということがテレビなどで取り上げられ大きく報道され始めました。以前は、年齢要因のことを社会的に発言することすら難しい雰囲気がありましたので、たった4年ですが隔世の感があります。それだけ、今の「不妊治療」について社会全体で前向きに考え始めた結果だと思えます。

当院では、2012年X月1カ月間に12症例の高度生殖医療における胚移植の周期に鍼灸治療をおこないました。このX月1カ月間に胚移植と鍼灸治療を併行しておこなった12症例の方々の背景をみていきますと、年齢は35歳から43歳までで平均39.0歳。移植回数は1回から10回以上と平均4.75回です。このように、年齢が高く、不妊治療歴が長く、何度も、高度生殖医療をおこない胚移植をなさっている方々に対し、西洋医学的な不妊治療と並行して鍼灸治療を行った結果、この12例のうち、8例（66%）が着床しました。そして1回目心拍確認が5例、最終的に4例が2回目の心拍確認にいたり、無事にご出産なさいました。この4例の年齢は35歳、36歳、42歳、43歳と平均39歳となり、また平均移植回数は6.5回です。卵子老化が35歳から、体外受精での成績が大きく落ち込むといわれるのが37歳です。難治性不妊での、平均年齢39歳での出産は鍼灸治療がなんらかの貢献ができたのではと考えます。

東洋医学の門をたたくのは、この12例のように何度も高度生殖医療を行っていたり、高齢、長い不妊治療歴、婦人科疾患を併せ持つケースや、不育症など難治性不妊とあってよいのではないと思われる方々です。この難治性不妊の方々が、無事妊娠し、出産なさるためには、東洋医学の生命観を前提とした弁証論治を通じて、その患者さんの物語を知ることがとても大切ではないかと思います。物語を読み込むことから、その人の過去～現在を知ることができ、未来に向かって何が必要かと言うことが明確になってきます。難治性不妊の場合、「不妊」ということだけを取り出して考えるだけでは突破口が見えないケースが多いと思えます。しっかりと正面から取り組む、そのために東洋医学が必要なのです。

弁証論治は「東洋医学で人を診る」便利ツールです。四診という、東洋医学で人を診るための技術やノウハウを使い、データをあつめ、時系列にそって東洋医学の生命観にそって過去～今、未来を読み込んでいくことで、人生の物語を提示し、弁証論治とし身体作りにかかっています。当院でのこの取り組みについて、高度生殖医療を行いながらの不妊治療、難治性不妊の治療にいかに関与できるのか、具体的な位置から検討していきたいと思えます。

不妊症の中医鍼灸治療

¹林 暁萍, ²高 明

¹林鍼灸院, ²武庫川女子大学

近年, 日本において晩婚化, 晩産化が進んでいる。挙児希望年齢の上昇により, 女性の加齢に伴う生理的妊孕性低下による不妊症が増加している。現代医学の生殖補助医療 (Assisted Reproductive Technology: ART) の進歩と普及は不妊症の治療方針は大きく変化してきた。現在, 不妊治療の中核である体外受精など ART の進歩により, 妊娠が成立する機会が増加しているが, 依然として一部分の患者が妊娠できないのは事実である。または, 不妊治療の精神的・体力的・経済的・社会的ストレスにより, 治療を中止する症例も見受けられる。このような背景に中医療法 (薬療法や鍼灸療法) および, 最先端 ART と中医療法を結び付けた「中西医結合療法」に対する感心も高まっている。

本論文は 2009 年 8 月から 2013 年 6 月まで, 他の医療機関で不妊症と診断された挙児希望で来院し, 中医弁証論治による連続鍼灸治療 3 カ月以上 (鍼灸治療のみおよび ART + 鍼灸治療), 妊娠が成立した 113 例を分析し, 報告する。113 例のうち, 鍼灸治療のみ, 妊娠が成立したのは 21 例 (18.6%), ART 療法のみで妊娠ができず, 鍼灸療法を併用してから ART 療法が成功したのは 92 例 (81.4%) であった。

中医学の弁証分析により, 113 例のうち, 腎虚タイプは 51 例 (約 45.1%), 最も多く, 平均治療回数 25.3 回; 瘀血タイプは 27 例 (23.9%), 平均治療回数 19.2 回; 肝鬱気滞タイプは 22 例 (19.5%), 平均治療回数 22.3 回; 痰湿タイプは 13 例 (11.6%), 平均治療回数 28 回であった。

以上の結果から中医学の弁証による鍼灸治療は, 女性不妊症に有効な療法であることが再び証明された。さらに, 不妊患者のうち高齢による腎虚タイプが最も多いこともわかった。また, 現代最先端の ART 療法の奏効しにくい症例に弁証による鍼灸療法の併用は妊娠成立率を高めることも証明された。